

性善説・性悪説は 何でできているのか，何に表れているのか？

○坂爪葉¹・田中秀樹²¹ 広島国際大学大学院心理科学研究科実践臨床心理学専攻 ² 広島国際大学心理学部心理学科

はじめに

戦後から現在まで，我々の世界は変化してきた。戦後まもなくは，助け合わなければ生きていけない厳しい世界であった。日常生活を不自由なく過ごすには，時に他者を信頼し，他者からの助けを得ながら生活する必要がある（荒井，2013）。しかし現在は，「治安に関する世論調査」より，治安の悪化を感じている人は86.6%，ここ10年で自分や身近な人が犯罪に遭うかもしれないと感じるようになったという人は80.2%であった（内閣府，2004）。このように，現在は治安の悪化や，自分や家族の犯罪被害に対して不安を感じるようになってきている。我々は，人間の本性をどのように捉えているのだろうか。「人間とは，〇〇というものだ」という人間に関する捉え方のことを人間観という。人間観には，人の本性を善とする孟子の唱えた考えである性善説や，人の本性を悪とする荀子の唱えた説である性悪説がある（旺文社，2001）。本研究では，性善説・性悪説と家庭環境，活動，世代，時代を表す色の関連を検討することを目的とした。

方法

本研究では JGSS-2012 のデータを用いて行った。JGSS-2012 は，2012年2月から4月にかけて満20歳以上89歳以下の男女個人を対象に実施された全国調査である。性善説・性悪説という価値観を調査するために，全般的な年代のデータが揃う JGSS のデータを使用した。Stata.15 を用いて構造方程式モデリングを行った。また，CATDAP02 を使用し，カテゴリカルな変数も分析した。

結果

変数名	カテゴリ	Number of obs=1407			
		AIC	AICの差	ウエイト	
1 世代	3	-37.11	0.00	1.00000	
2 過去1年間に最も積極的に参加した会や組織	6	-33.51	3.60	0.16483	
3 最終学校：母親	4	-26.18	10.93	0.00424	
4 今の時代をあらわす色	2	-25.20	11.91	0.00259	
5 父親の生死	2	-24.55	12.56	0.00187	
6 過去1年間のボランティア活動：社会的な支援を必要とする人々	2	-24.14	12.97	0.00152	

表1のCATDAPの結果より，世代と人間観が大きく関係していた。次に，過去1年間に最も積極的に参加した会や組織，母親の最終学校，今の時代をあらわす色などが大きく関係していた。

表2 世代と人間観のクロス表

世代	人間観							合計
	1(善)	2	3	4	5	6	7(善)	
1(20-30代)	19(4.6)	21(5.1)	67(16.2)	151(36.6)	78(18.9)	48(11.6)	29(7.0)	413(100.0)
2(40-60代)	7(0.9)	33(4.3)	83(10.9)	268(35.3)	201(26.5)	104(13.7)	63(8.3)	759(100.0)
3(70-80代)	1(0.4)	2(0.9)	13(5.5)	102(43.4)	59(25.1)	42(17.9)	16(6.8)	235(100.0)
合計	27(1.9)	56(4.0)	163(11.6)	521(37.0)	338(24.0)	194(13.8)	108(7.7)	1407(100.0)

注：括弧内は%

表2の結果より，若い世代の人ほど，人間の本性を悪と考えており，中高年ほど人間の本性を善と考えているという結果になった。

結果をまとめると，性善説と考える人は，経済的に豊かな家庭環境で育ち，中高年の世代に多く，人とのつながりを持ち，大切にしている，今の時代を明るいものと捉えているような人に多いと考えられる。一方，性悪説と考える人は，経済的に豊かでない家庭環境で育ち，若い世代に多く，人と関わりを持たない，今の時代を暗いものと捉えているような人に多い可能性がある。

考察

ひきこもりの状態になった年齢が「14歳以下」及び「15歳～19歳」の者を合わせると，3割強の者が10代のうちにひきこもりの状態となっている。一方，ひきこもりの状態になった年齢が「30歳～34歳」（18.6%）及び「35歳～39歳」（5.1%）の者を合わせると，30代でひきこもり始めた者も23.7%いる（内閣府，2010）。ニートや引きこもりに対して，活動や人と接触をただ促すのではなく，現代の世界や将来への見方をポジティブなものにする必要がある。

謝辞

本研究を行うにあたり，ご指導を頂きお世話になった卒業論文指導教員の広島国際大学の小野寺孝義教授に心より感謝致します。

引用文献

- 荒井崇史(2013). 犯罪不安と一般的信頼との関連—犯罪被害に対する楽観視との比較を通して—
 一. 犯罪心理学研究, 50(1), 15-25.
 内閣府(2004). 治安に関する世論調査.
 内閣府(2010). 若者の意識に関する調査（ひきこもりに関する実態調査）.
 旺文社(2001). 世界史事典 三訂版 旺文社.